令和２年度静岡県多文化共生基礎調査
（日本人調査）

日本人調査の経年比較に関する注意事項

１．2009 年調査（平成 21 年度静岡県多文化共生アンケート調査）

2009 年の日本人調査は 3,000 部送付した。そのうち未達分の 26 部（未達率 0.9%）を差し引いた 2,974 部 (a) が配布数であった。回収数は 1,772 部 (b) であり、回収率 (b/a) は 59.6%であった。無効ケースはなく、回収数の 1,772 部をそのまま有効回答数とする。2009 年調査の結果に関する以下の数値は、1,772 部を母数とする比率で示している。

２．2016 年調査（平成 28 年度静岡県多文化共生に関する基礎調査）

2016 年の日本人調査は 2,000 部送付した。そのうち未達分の 9 部（未達率 0.5%）を差し引いた 1,991 部（a）が配布数であった。回収数は 879 部（b）であり、回収率（b/a）は 44.1%であった。2016 年調査の結果に関する以下の数値は、879 部のうち無効ケース 5 部を差し引いた有効回答数 874 部を母数とする比率で示している。

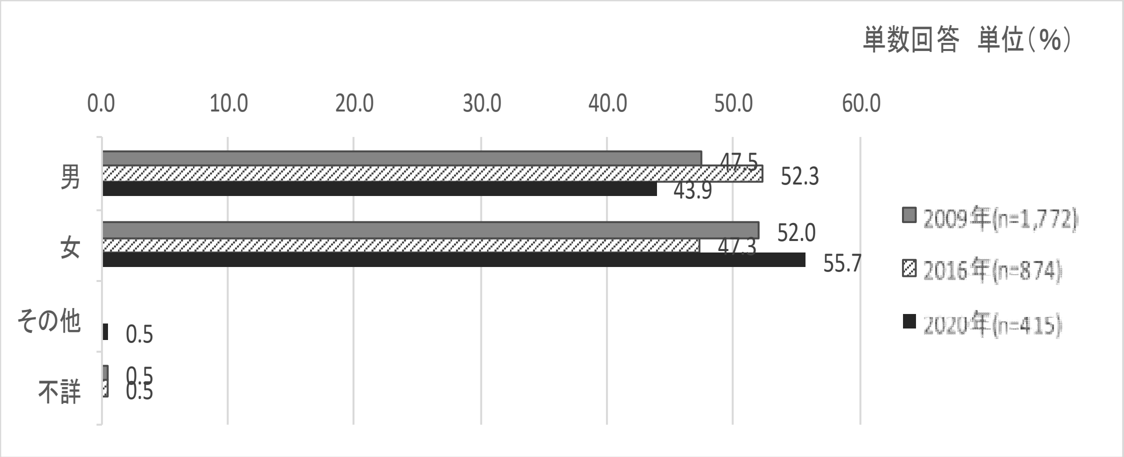
３．2020 年調査（令和２年度　静岡県多文化共生基礎調査）

2020 年の日本人調査は 1,000 部（a）送付した。オンライン回収は 99 部、郵送回収は 319 部で、計 418 部（b）回収された。回収率（b/a）は 41.8%であった。そのうち、オンラインと郵送との重複回答による無効ケースが 2 部、その他の無効ケースが 1 部あったため、最終的な有効回答数は 415 部（c）で回収率（c/a）は 41.5%となった。2020 年調査の結果に関する以下の数値は、有効回答数 415 部を母数として各選択肢の比率を示している。

以下では 2020 年調査の日本人調査の結果を報告するが、2009 年調査、2016 年調査と比較が可能な項目については、比率を比較している。ただし、３つの調査で必ずしも選択肢が同じではない設問も多い点に注意が必要である。調査結果報告の本文では原則として比率を比較する図のみを提示しているが、選択肢が多く図では煩雑になる場合は表を示す。

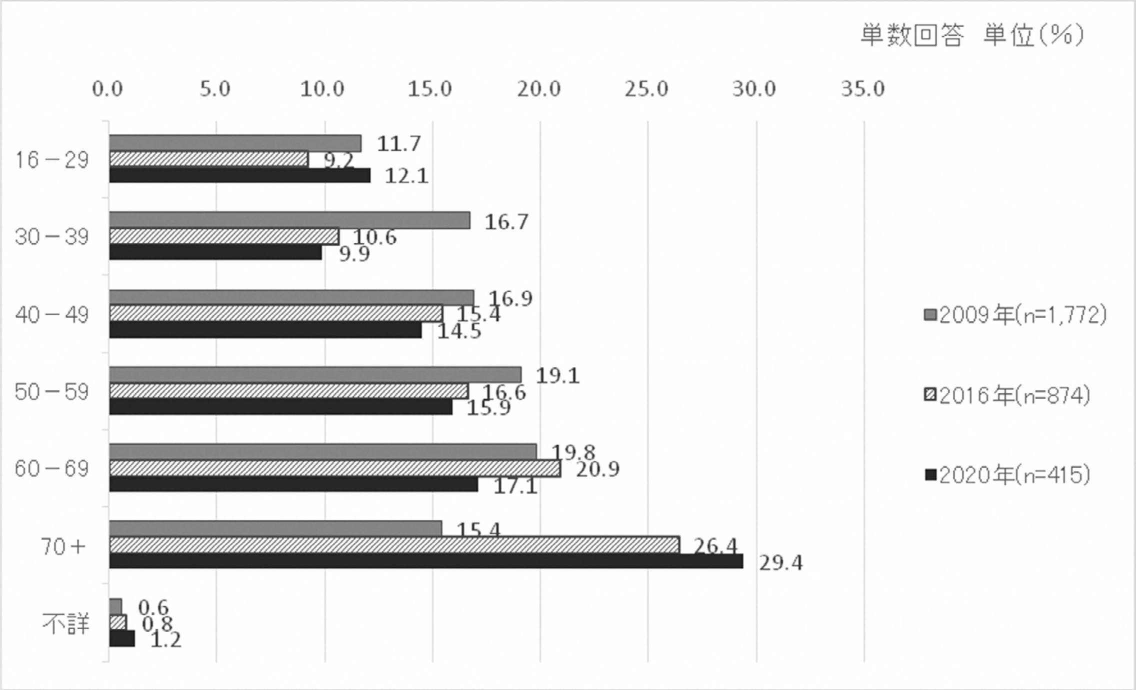
さらにいくつかの設問（具体的には問５、問６、問９）では回答者を 16-39 歳、40-59 歳、60 歳以上の３つの年代に区分して年代別に比率を比較している。

問１　あなたの性別（あなたの今の認識にもっとも近い性別）を教えてください。（単数回答）



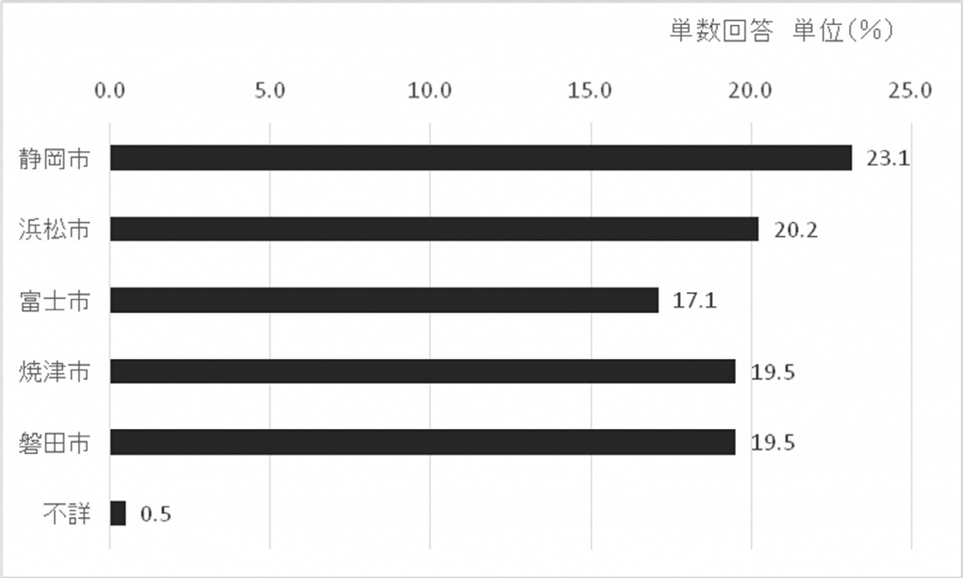
2020 年調査では、女性が 55.7%、男性が 43.9%であった。2009 年、2016 年も男女はほぼ半数ずつであった。

問２　あなたの年齢を教えてください。（単数回答）



2020 年調査では、70 歳以上が 29.4%で最も多く、次いで 60 歳代が 17.1%、50 歳代が 15.9%であった。

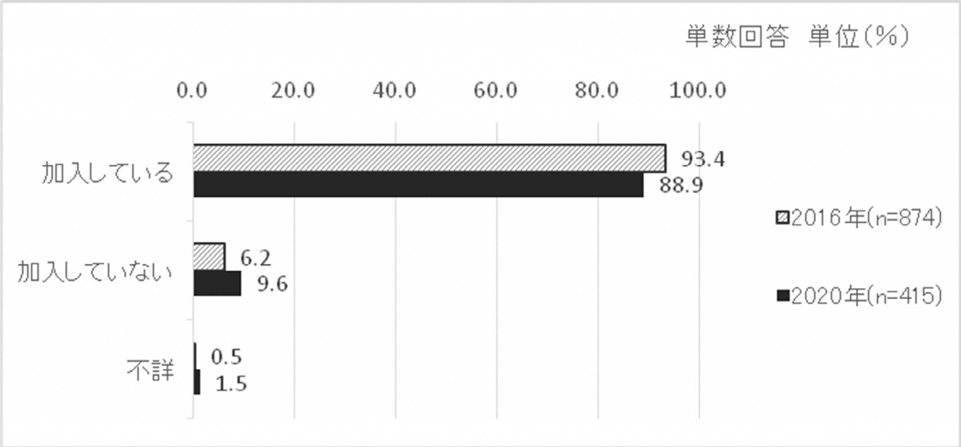
問３　あなたが居住する市を教えてください。（単数回答）



＊n=415

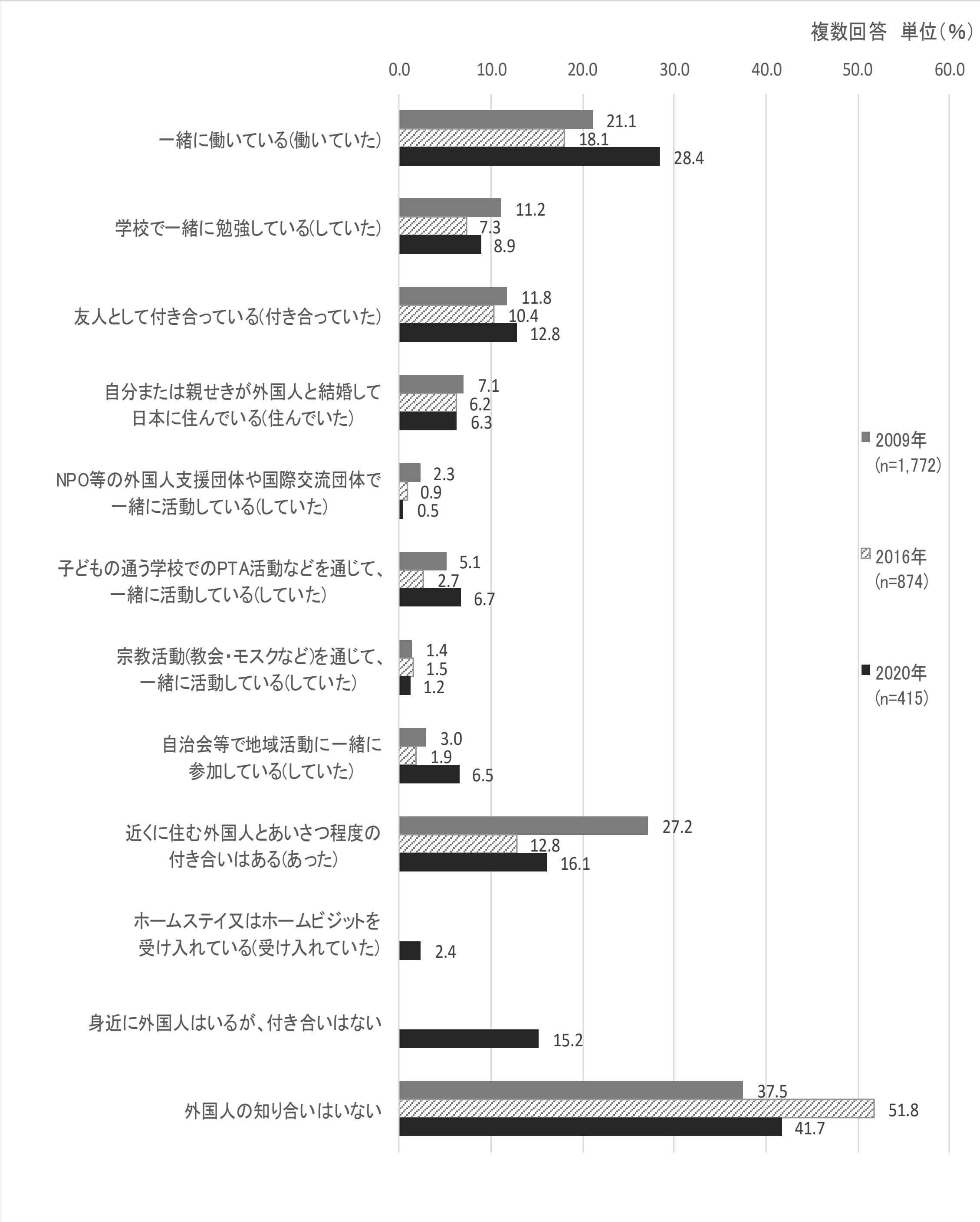
静岡市の 23.1%が最も多く、次いで浜松市が 20.2%、焼津市と磐田市が 19.5%であった。

問４　あなた（あなたの世帯）は自治会に加入していますか。（単数回答）



2020 年調査では、「加入している」が 88.9%であり、2016 年の 93.4%から 4.5 ポイント低下している。

問５　あなたは外国人と以下のようなつき合いがありますか。（過去の経験を含む）
（複数回答）



2020 年調査では、「外国人の知り合いはいない」が 41.7%で最も多く、次いで「一緒に働いている（働いていた）」が 28.4%、「近くに住む外国人とあいさつ程度の付き合いはある（あった）」が 16.1%であった。

2020 年調査における年代と外国人とのつき合いの関係

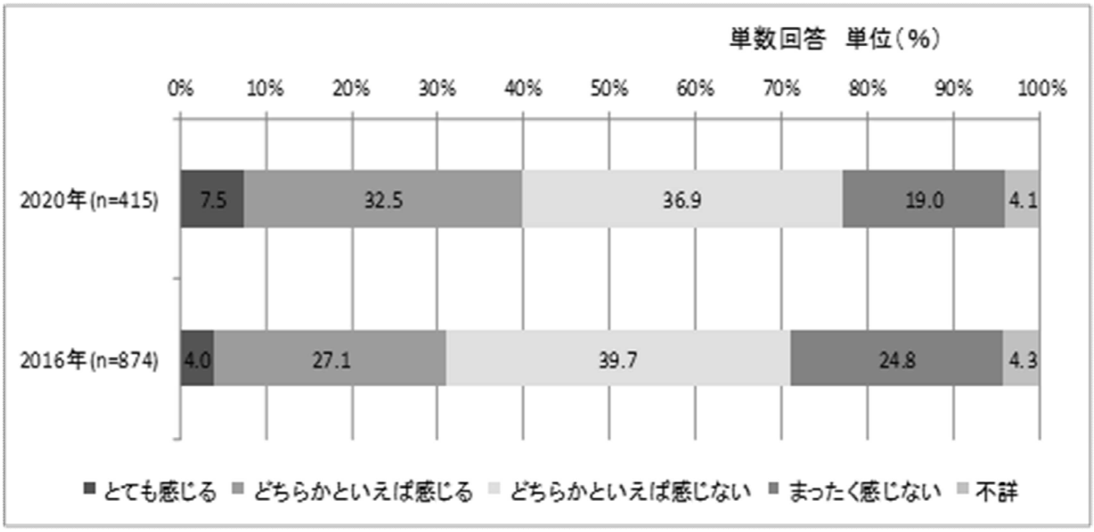
												複数回答　単位（%）
	一緒に働いている（働いていた）	学校で一緒に勉強している（していた）	友人として付き合っている（付き合っていた）	自分または親せきが外国人と結婚して日本に住んでいる（住んでいた）	NPO等の外国人支援団体や国際交流団体で一緒に活動している（していた）	子どもの通う学校でのPTA活動などを通じて、一緒に活動している（していた）	宗教活動（教会・モスクなど）を通じて、一緒に活動している（していた）	自治会等で地域活動に一緒に参加している（していた）	近くに住む外国人とあいさつ程度の付き合いはある（あった）	ホームステイ又はホームビジットを受け入れている（受け入れていた）	身近に外国人はいるが、つき合いはない	外国人の知り合いはいない	合計
16-39歳	34.1	28.6	18.7	1.1	0.0	4.4	0.0	3.3	13.2	1.1	9.9	36.3	91
40-59歳	38.1	7.1	17.5	9.5	0.0	15.1	0.0	9.5	15.1	3.2	12.7	33.3	126
60歳以上	19.7	1.0	7.3	6.7	1.0	2.6	2.6	6.2	18.7	2.6	19.2	50.3	193
不詳	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	5
合計	28.4	8.9	12.8	6.3	0.5	6.8	1.2	6.5	16.1	2.4	15.2	41.7	415

16-39 歳を見ると、「外国人の知り合いはいない」が 36.3%と最も多く、次いで「一緒に働いている（働いていた）」が 34.1%、「学校で一緒に勉強している（していた）」が 28.6%であった。

40-59 歳を見ると、「一緒に働いている（働いていた）」が 38.1%と最も多く、次いで「外国人の知り合いはいない」が 33.3%、「友人として付き合っている（付き合っていた）」が 17.5%であった。

60 歳以上を見ると、「外国人の知り合いはいない」が 50.3%と最も多く、次いで「一緒に働いている（働いていた）」が 19.7%、「身近に外国人はいるが、つき合いはない」が 19.2%であった。

問６　地域で暮らす外国人について、どの程度親しみを感じますか。（単数回答）



2020 年調査では「どちらかといえば感じない」と「まったく感じない」と回答した割合を合わせると 55.9%、「どちらかといえば感じる」と「とても感じる」と回答した割合を合わせると 40.0%で、外国人に親しみを感じない日本人が 15.9 ポイント多かった。

2020年調査における年代と外国人に対する親しみの関係

					単数回答　単位（%）	
	とてもよく感じる	どちらかといえば感じる	どちらかといえば感じない	まったく感じない	不詳	合計（人）
16-39歳	11.0	36.3	33.0	19.8	0.0	91
40-59歳	6.4	33.3	44.4	15.1	0.8	126
60歳以上	6.7	31.1	33.7	21.2	7.3	193
不詳	0.0	0.0	40.0	20.0	40.0	5
合計	7.5	32.5	36.9	19.0	4.1	415

16-39歳を見ると、「どちらかといえば感じる」が36.3%と最も多く、次いで「どちらかといえば感じない」が33.3%、「まったく感じない」が19.8%であった。

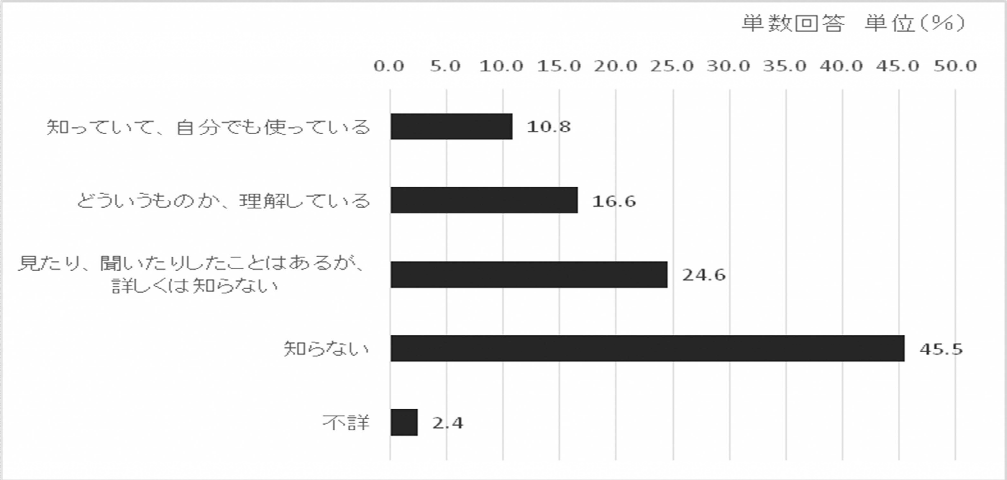
40-59歳を見ると、「どちらかといえば感じない」が44.4%と最も多く、次いで「どちらかといえば感じる」が33.3%、「まったく感じない」が15.1%であった。

60歳以上を見ると、「どちらかといえば感じない」が33.7%と最も多く、次いで「どちらかといえば感じる」が31.1%、「まったく感じない」が21.2%であった。

問７　あなたは、「やさしい日本語」（※）を知っていますか。（単数回答）

※ 「やさしい日本語」とは、外国人にも分かるように配慮した簡単な日本語のことです。

（例）高台に避難してください。→ 高(たか)い　場所(ばしょ)へ　逃(に)げて　ください。

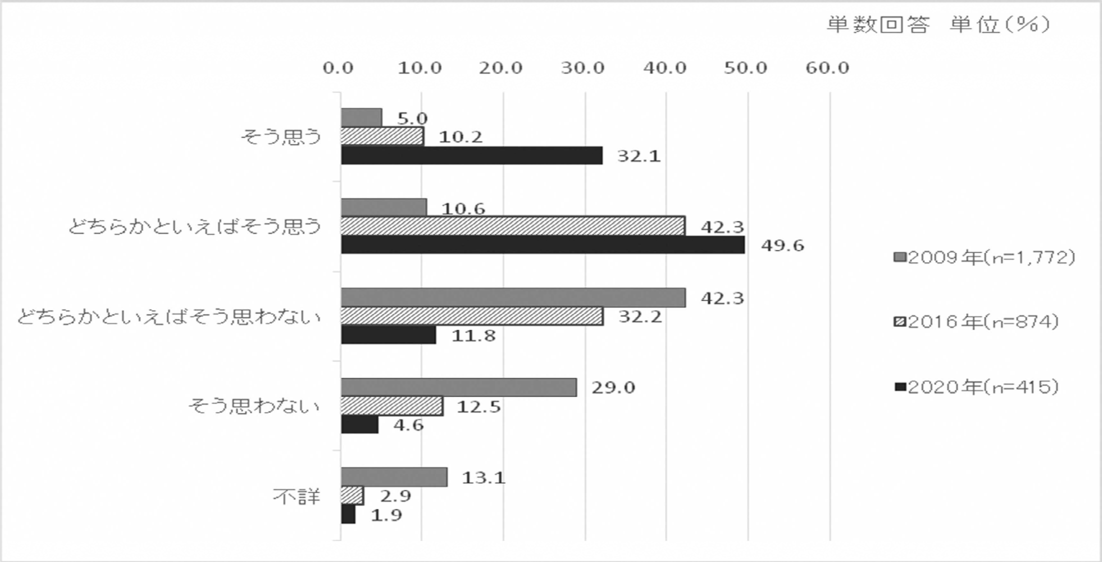


＊n=415

「知らない」が45.5%で最も多く、次いで「見たり、聞いたりしたことはあるが、詳しくは知らない」が24.6%であった。

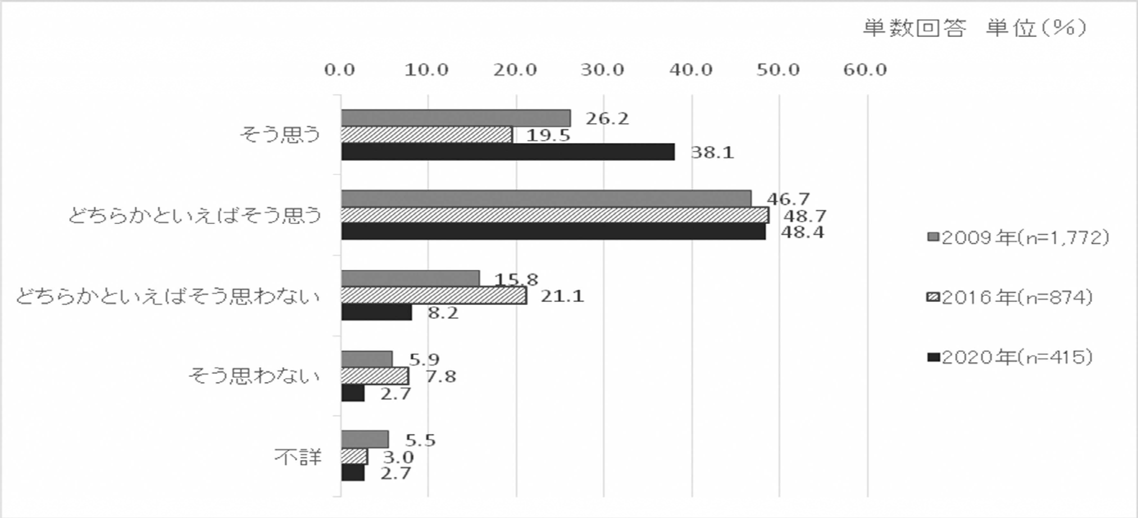
問８　多文化共生に関する次の意見についてあなたはどう思いますか。A～C のそれぞれについて教えてください。（単数回答）

A　外国人とのコミュニケーションを図るため、日本人は、外国語や「やさしい日本語」及び外国の文化を学ぶべきだ



2020 年調査では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は 81.7%であり、2016 年調査の 52.5%、2009 年調査の 15.6%と比べると、上昇している。

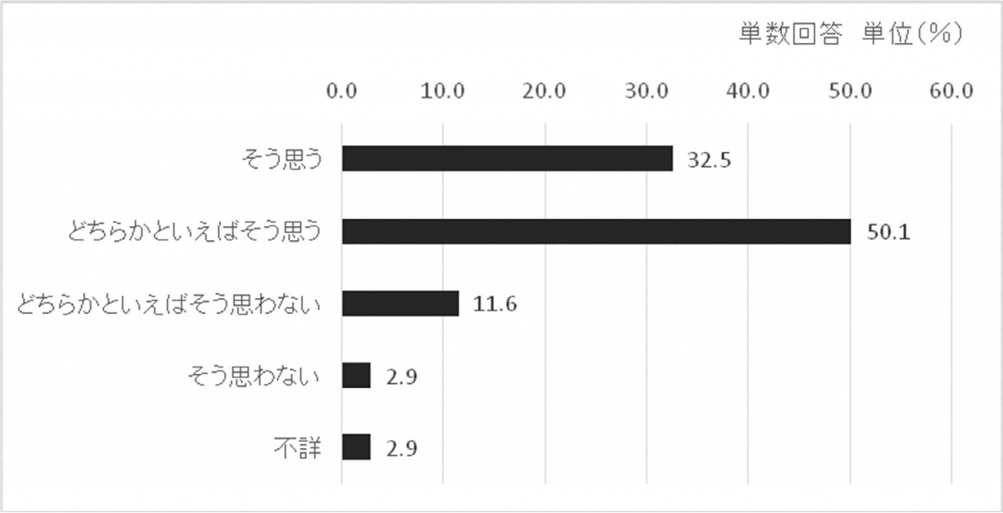
B　日本人は、外国人が日本の言語、文化、習慣やルールを学べるよう支援すべきだ



＊2009 年と 2016 年の調査では B の文章の主語は「日本人」ではなく「行政」。

2020 年調査では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は 86.5%であり、2016 年調査の 68.2%、2009 年調査の 72.9%と比べると、上昇している。

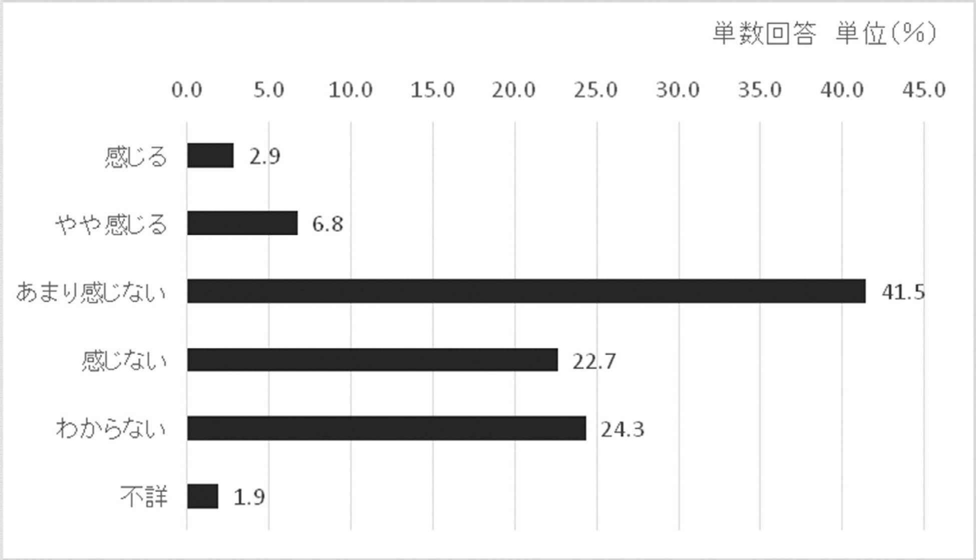
Ｃ　日本人は、外国人が地域の活動に参加できるよう支援すべきだ



＊n=415

2020 年調査では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は 82.6%であった。

問９　あなたのまわりで外国人に対する差別があると感じますか。（単数回答）



＊n=415

「あまり感じない」が 41.5%で最も多く、次いで「わからない」が 24.3%、「感じない」が 22.7%であった。

年代と外国人に対する差別の存在の感じ方の関係

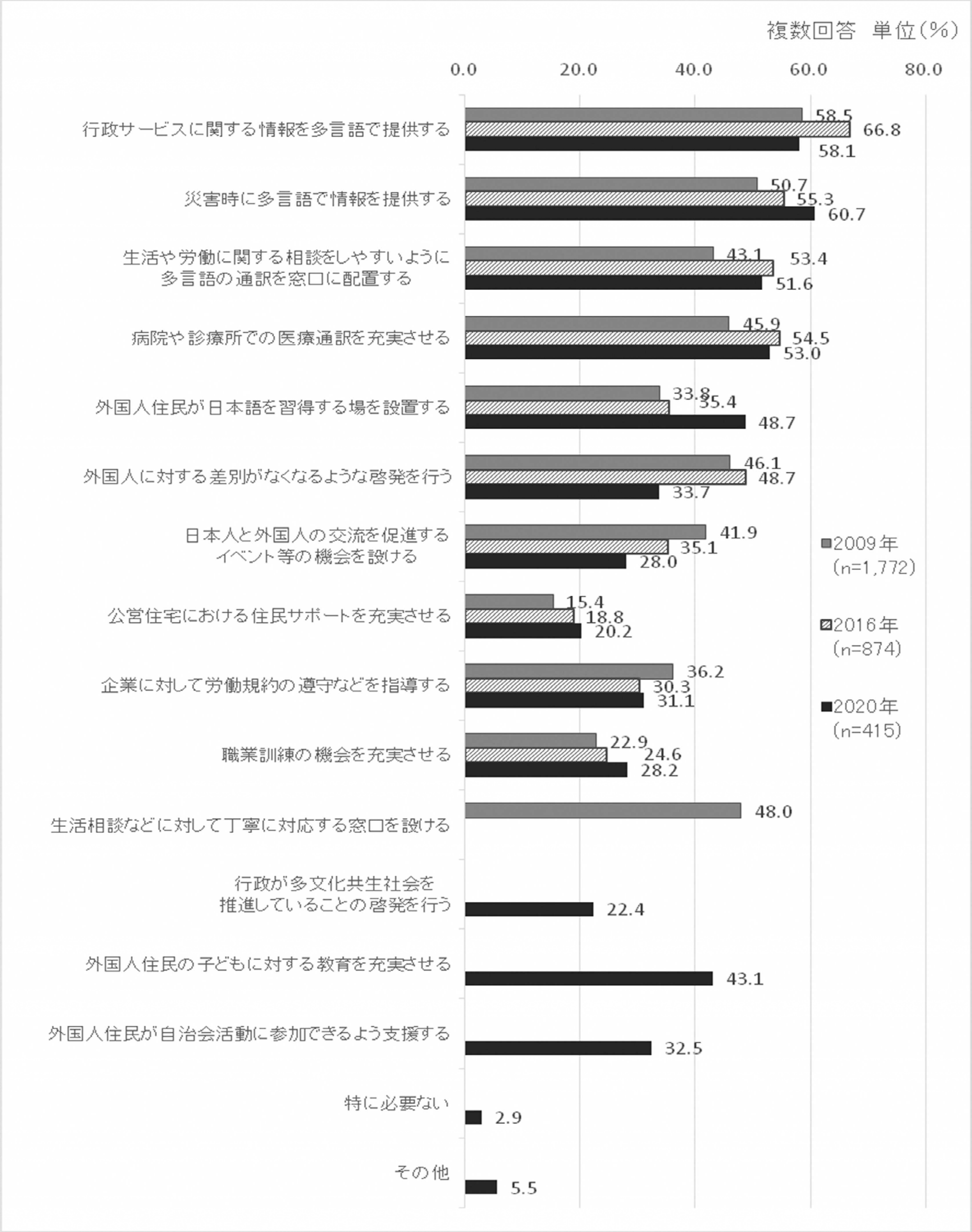
					単数回答　単位（%）	
	感じる	やや 感じる	あまり 感じない	感じない	わからない	合計 （人）
16-39歳	2.2	6.6	51.7	22.0	16.5	91
40-59歳	6.4	8.7	46.8	12.7	25.4	126
60歳以上	1.0	5.2	34.2	29.0	28.0	193
不詳	0.0	20.0	0.0	40.0	0.0	5
合計	2.9	6.8	41.5	22.7	24.3	415

2020 年調査では、16-39 歳を見ると、「あまり感じない」が 51.7%と最も多く、次いで「感じない」が 22.0%、「わからない」が 16.5%であった。

40-59 歳を見ると、「あまり感じない」が 46.8%と最も多く、次いで「わからない」が 25.4%、「感じない」が 12.7%であった。

60 歳以上を見ると、「あまり感じない」が 34.2%と最も多く、次いで「感じない」が 29.0%、「わからない」が 28.0%であった。

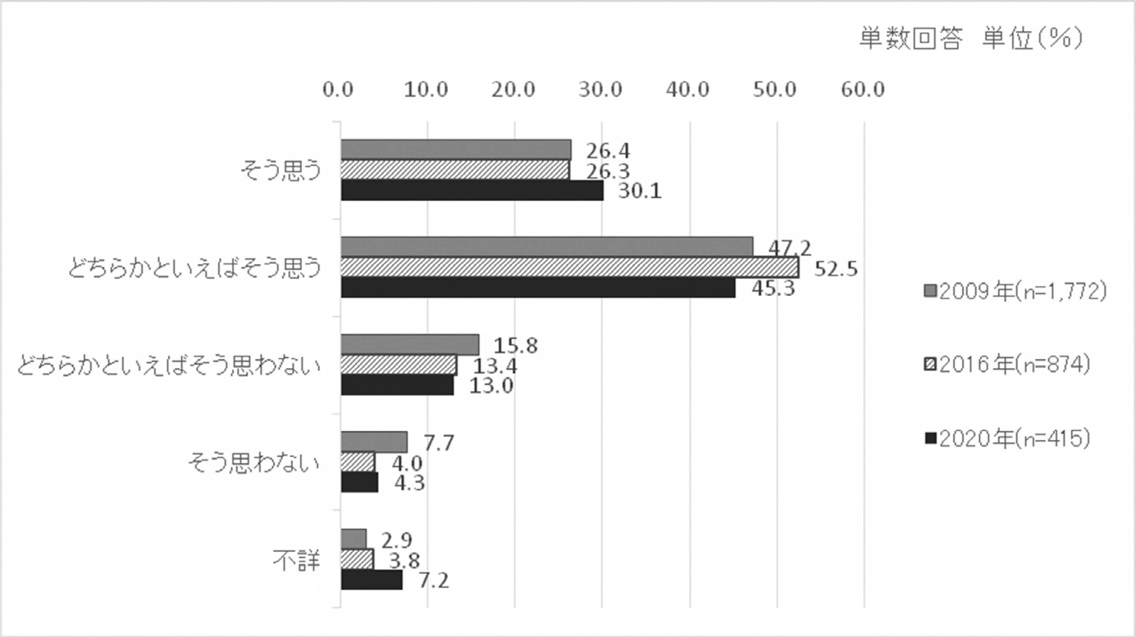
問 10　日本人住民と外国人住民がともに暮らしやすい地域社会にしていくために、
県や市町など行政はどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）



2020 年調査では、「災害時に多言語で情報を提供する」が 60.7%で最も多く、次いで「行政サービスに関する情報を多言語で提供する」が 58.1%、「病院や診療所での医療通訳を充実させる」が 53.0%であった。

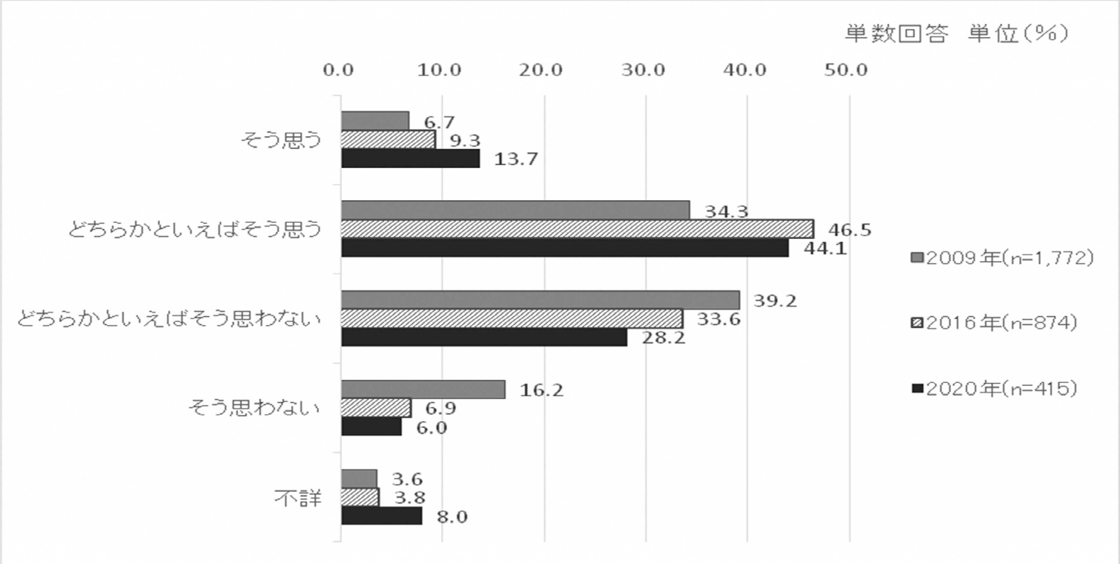
問 11　外国人住民が増加することによる影響についてあなたはどう思いますか。A～D のそれぞれについて教えてください。（単数回答）

A　社会に多様性が生まれる



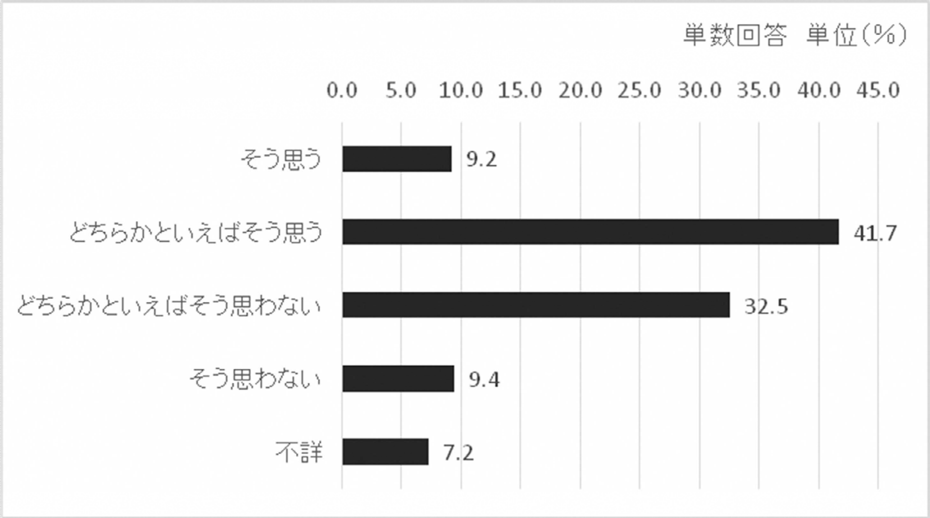
2020 年調査では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は 75.4%であり、過去の調査と比べると、回答に大きな変化はない。

B　地域経済の活性化に貢献する



2020 年調査では、「そう思う」と「どちらといえばそう思う」の合計は 57.8%であり、2016 年調査の 55.8%、2009 年調査の 41.0%と比べると、上昇している。

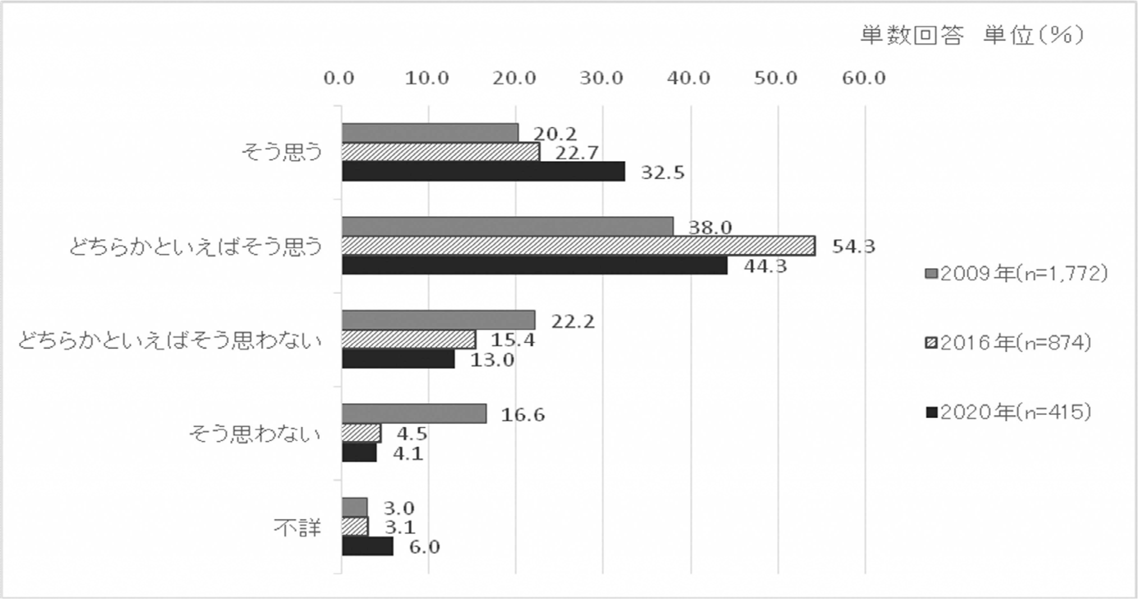
C　地域や自治会活動の活性化に貢献する



＊n=415

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は 50.9%であり、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計は 41.9%である。

D　外国の文化や習慣を知る機会が増える



2020 年調査では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計は 76.8%であり、2016 年調査の 77.0%と同程度となっている。